

# 悠遠き日にあこがれて

(昭和二十五年寮歌)

高倉和昭君 作歌  
金井俱光君 作曲

## 一

悠遠き日にあこがれて吾は来たりぬ  
北国の詩の都ぞ  
やはらかき緑の芝生  
美はしき小川の畔  
清明の森蔭深く訪ね来て  
新らしき喜びに満つ

## 二

讃へなむ石狩の曠野に打建てし  
雄大なる先人が足跡  
四十三回記念祭巡りて  
光栄あれ伝統の法燈  
星辰清きエルムの学園に甦へりたる  
鐘の音は高く鳴るなり

## 三

あかつきは紫の夢にけむれり  
雪解なる陵にのぼりて  
恋ひ慕ふ意気と血汐の  
花香る青史の光栄よ  
二春を魂の故郷に契りては  
培はん尊き遺訓

## 四

仰ぎ見よ秀でたる久遠の山河  
悠久の時の移ろひ  
森蔭に心情は燃えて  
恵むなり真理の秘奥  
青春の高遠き理想を抱きては  
進まなむ厳しかる道